

お知らせ

令和5年(2023年)7月12日

報道機関各位

函館市総務部人事課

TEL 21-3667

令和5年(2023年)函館市功労賞受賞者の決定および
令和5年函館市功労賞表彰式の開催について

このことについて、下記のとおりお知らせいたしますので、取材方よろしくお願
いいたします。

記

1 令和5年函館市功労賞受賞者

【公益功労】 2名

坂口 雄一 氏

片桐 恭弘 氏

2 令和5年函館市功労賞表彰式

(1) 日 時 令和5年8月1日(火) 午前11時

(2) 場 所 函館国際ホテル 2階 鳳凰の間
(函館市大手町5番10号)

(3) 式 次 第

ア 開 式

イ 式 辞 函館市長 大泉 潤

ウ 表 彰

エ 祝 辞 函館市議会議長 吉田 崇仁

オ 謝 辞 功労賞受賞者 坂口 雄一

カ 閉 式

3 配布資料

(1) 受賞者の履歴書および功績調書

(2) 函館市功労賞受賞者数調べ

(3) 函館市表彰条例

4 その他

令和5年6月19日(月)に開催された函館市表彰審議委員会において審査し、
受賞者を決定

令和5年(2023年)函館市功勞賞
(報道用資料)

履 歴 書

さか ぐち ゆう いち
坂 口 雄 一

昭和22年12月15日生(75歳)

学 歴

昭和41年 3月 北海道亀田高等学校卒業

職 歴

昭和41年 4月 農業
現 在

その他の経歴

(消防団歴)

昭和53年 5月 函館市消防団 団員
平成 2年 8月

平成 2年 8月 函館市消防団 班長
平成 7年 8月

平成 7年 9月 函館市消防団 部長
平成10年 3月

平成10年 4月 函館市消防団 副分団長
平成13年 3月

平成13年 4月 函館市消防団 分団長
平成16年 3月

平成16年 4月 函館市消防団 副団長
平成16年11月

平成16年12月 函館市函館消防団 副団長
平成23年 3月

平成23年 4月 函館市函館消防団 団長
令和 5年 3月

(消防協会歴)

平成23年 5月 平成24年 3月	財団法人北海道消防協会 理事
平成24年 4月 平成30年 6月	公益財団法人北海道消防協会 理事
平成30年 6月 令和 4年 6月	公益財団法人北海道消防協会 副会長
平成30年 7月 令和 4年 6月	公益財団法人日本消防協会 評議員

(公職歴)

平成14年 7月 平成26年 7月	函館市農業委員
平成19年 3月 平成22年 3月	函館市亀田農業協同組合 理事
平成25年 3月 平成31年 3月	函館市亀田農業協同組合 理事
令和 4年 3月 現 在	函館市亀田農業協同組合 理事
平成16年 4月 平成19年 4月	渡島蔬菜農業協同組合 理事
平成19年 4月 平成25年 4月	渡島蔬菜農業協同組合 代表理事組合長
平成25年 4月 平成31年 3月	渡島蔬菜農業協同組合 理事
令和 4年 4月 現 在	渡島蔬菜農業協同組合 理事

賞 罰

平成23年 3月	消防庁長官永年勤続功労章 (消防功労)
平成30年 3月	消防庁長官功労章 (消防功労)

功 績 調 書

さか ぐち ゆう いち
坂 口 雄 一

氏は、農業に従事する傍ら、昭和53年5月から令和5年3月までの永きにわたり消防団務に携わり、大小幾多の火災をはじめ風水害等の災害に出動し、常に率先して陣頭に立ち、地域住民の安全確保に大きく貢献した。

この間、豊富な経験と識見、旺盛な研究心をもって部下団員の育成指導に手腕力量を発揮し、消防団員の資質向上に努めたほか、平成16年に函館市と3町1村が合併した際には、副団長として他の4消防団との情報交換や連絡調整に積極的に努め、合併に不安を抱く部下団員のために消防団活動や事務内容を説明し、周知を図るなど、合併後の円滑な消防団運営に尽力した功績は誠に多大である。

また、平成23年に函館市函館消防団長に就任してからは、5消防団を統括する函館市連合消防団長として、各地域の特性を活かしながら連携強化を図ったほか、平成30年に公益財団法人北海道消防協会の副会長に就任してからは、各自治体の取り組みや、消防力の強化に関する情報・知識を収集し、消防団活動に取り入れながら、地域に密着した防災機関としての強固な組織づくりに取り組むなど、地域防災力の強化に大きく貢献した。

さらに、平成14年に函館市農業委員、平成19年に函館市亀田農業協同組合の理事に就任し、現在に至るまで本市の農業の振興発展に寄与しているほか、平成16年には渡島蔬菜農業協同組合の理事に就任し、函館朝市における生産者直売市場の発展に努め、現在の「函館朝市ひろば」の建て替えにも携わるなど、多方面から地域振興に尽力した。

このように、氏の永年にわたる本市防災活動および地域振興に貢献した功績は誠に大きなものがある。

履 歴 書

かた ぎり やす ひろ
片 桐 恭 弘

昭和29年2月1日生（69歳）

学 歴

昭和51(1976)年3月	東京大学工学部電子工学科卒業
昭和53(1978)年3月	東京大学大学院工学系研究科修士課程情報工学専攻修了
昭和56(1981)年3月	東京大学大学院工学系研究科博士課程情報工学専攻修了

職 歴

自昭和56(1981)年4月 至昭和60(1985)年3月	日本電信電話公社武蔵野電気通信研究所研究員
自昭和60(1985)年4月 至昭和60(1985)年10月	日本電信電話株式会社（NTT）基礎研究所研究員
自昭和60(1985)年11月 至平成元(1989)年1月	日本電信電話株式会社（NTT）基礎研究所主任研究員
自平成元(1989)年2月 至平成7(1995)年3月	日本電信電話株式会社（NTT）基礎研究所主幹研究員
自平成7(1995)年4月 至平成12(2000)年6月	エイ・ティ・アール知能映像通信研究所第四研究室長
自平成12(2000)年7月 至平成15(2003)年4月	国際電気通信基礎技術研究所経営企画部次長
自平成15(2003)年5月 至平成17(2005)年8月	国際電気通信基礎技術研究所メディア情報科学研究所所長

自平成 1 7 (2005)年 9 月 公立ほこだて未来大学教授
至平成 2 2 (2010)年 3 月

自平成 2 2 (2010)年 4 月 公立ほこだて未来大学教授・複雑系知能学科長
至平成 2 4 (2012)年 3 月

自平成 2 4 (2012)年 4 月 公立大学法人公立ほこだて未来大学理事兼
公立ほこだて未来大学教授・副学長
至平成 2 8 (2016)年 3 月

自平成 2 8 年(2016) 4 月 公立大学法人公立ほこだて未来大学理事長兼学長
至令和 5 年(2023) 3 月

自令和 5 年(2023) 4 月 公立ほこだて未来大学名誉教授
自令和 5 年(2023) 4 月 国立研究開発法人産業技術総合研究所 人工知能研究センター研究センター長

現在

その他の経歴

学会活動(主な役職)

自平成 1 9 (2007)年 4 月 認知科学会会長
至平成 2 0 (2008)年 3 月

自平成 1 9 (2007)年 4 月 人工知能学会言語・音声理解と対話処理研究会主査
至平成 2 1 (2009)年 3 月

自平成 2 2 (2010)年 4 月 電子情報通信学会異文化コラボレーション研究会主査
至平成 3 0 (2018)年 3 月

自令和 3 (2021)年 4 月 社会言語科学会会長
至令和 4 (2022)年 3 月

賞 罰

平成 1 7 (2005)年 2005 年度社会言語科学会徳川宗賢賞萌芽賞

平成 2 0 (2008) 年 Best paper award, 5th International Conference on the Theory
and Application of Diagrams

功 績 調 書

かた ぎり やす ひろ
片 桐 恭 弘

氏は、平成17年9月に公立はこだて未来大学教授に就任以来、複雑系知能学科長、理事・副学長を経て、平成28年4月には理事長・学長に就任し、優れた指導力と先見性により、教育・研究活動や人材の育成に積極的に取り組むとともに、令和5年3月の任期満了まで、適切かつ効果的で、効率的な大学・法人運営に尽力した。

氏は、公立はこだて未来大学が、函館圏・道南圏に根ざす「新たな知の創造拠点」として、人々がより良く生きるための持続的な社会のしくみづくりを追求するという理念のもと、社会から誇りとされ、頼られ、愛される大学であることをめざし、社会に寄与する人材の育成、地域の課題解決、産業振興、文化振興などに積極的に取り組んだ。

地域の課題解決策を学生が自ら探る「プロジェクト学習」を充実・発展させるとともに、重点研究領域として、モバイルIT、世界で唯一の水産・海洋分野とITを融合させる取り組みであるマリンIT、地域医療サービスのIT化等に貢献するメディカルITという3つのMITを推進してきた。氏は、平成29年4月には未来AI研究センターを設置し、人工知能の応用に関わる企業や研究機関等との連携および共同研究を進めた。

教育分野においては、令和2年度から、統計学やデータの分析能力を身につけたデータサイエンティストの育成に取り組むとともに、海外留学助成制度を創設し、留学生の送り出し、受け入れを促進させるとともに、台湾の大学と交流を深めるなど、大学の国際化にも尽力した。

また、令和2年度から3年間は、コロナ禍にあって、氏のリーダーシップのもと迅速にオンライン授業を実施する体制を整備するとともに、新型コロナウイルス感染症対策会議を設置するなど、適切な危機管理に努めた。

このように、氏の公立はこだて未来大学の発展を通じた地域の教育水準の向上や地域貢献および同大学の知名度向上に貢献した功績は誠に大きなものがある。